令和６年度　自己評価および学校関係者評価書

令和７年度３月１１日
函館市立銭亀沢小学校

1　本年度の重点教育目標

◆主体的に考え表現し，学び続ける子◆
重点化して育成する資質・能力「自分の考えをもつ力」「自分で表現する力」

2　本年度の取組の重点

◎よき社会人となるために必要な資質・能力を明確にし，保護者・地域と共有して編成した教育課程の実施・評価・改善
◎教科の見方や考え方を働かせ，個別最適な学びと協働的な学びの視点での授業作りの推進
◎ＩＣＴの活用，少人数を生かしたきめ細やかな指導による個別最適な学び（個に応じた指導）の充実
◎各学年に応じて育成する資質・能力を明確にし，地域の特色を生かした探究的な活動を展開する全体計画及び年間指導計画に基づく活動の推進と見直しを図る。

3　自己評価結果に対する学校関係者評価

分　野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
人を大切にする力	子どもたちは，自分にはよいところがあると思っているか。	b	日常の学習を通して児童の主体性を尊重し，学校行事等を通して自己存在感や自己有用感を感じられるように，児童一人ひとりのよさや持ち味を伸ばすことを重視した。未来の社会を形成する人材の育成に引き続き努める。	B	A	今年度の満足度は 63%なので、70%以上を目指したい。
	子どもたちは，人が困っているときは，進んで助けているか。	a		A	A	
自分の考えを持つ力	子どもたちは，自分と違う意見について話し合いで解決しようとしているか。	b	学校でも家庭でも一人一台端末を積極的に活用するための研修を実施してきた。今後も児童一人ひとりの実態に即した指導の在り方をさらに進める。	B	A	
	子どもたちは，課題の解決に向けて，これまでの経験や学習で学んだことをもとに，自分の考えをもつことができているか。	a		A	A	
自分で表現する力	子どもたちは，自分の思っていることや感じていることをきちんと伝えることができているか。	b	学校全体で児童の言語活動を重視し，自らの考えを言葉で表現し伝え合う取組を行った。また端末を利用して考えの交流を行うなど，多様な表現の在り方についても実践を深めた。今後も，学習形態の工夫や，端末を活用した学習活動の展開を通して，多様な表現の仕方を身に付けさせていく。	B	A	
	子どもたちは，わからないことや詳しく知りたいことがあったときに，自分で学び方を考え工夫することができている。	b		A	A	
挑戦する力	子どもたちは，将来の夢や目標をもっているか。	a	学習や行事を通して児童に自信をもたせる取組を継続していく。そのために児童が学びの見通しをもたせる工夫や取組の過程における他者・自己評価などを繰り返し行い，さらに自信をもたせる取組を行う。	A	A	
	子どもたちは，難しいことでも，失敗を恐れないで挑戦しているか。	b		B	A	
学校における指導体制等の充実	教育目標の実現に向けて教職員が適切な役割を果たすとともに，相互に連携しながら教育活動に取り組むことができたか。	a	業務内容の精査や適切な分担により，担任が児童に向き合う環境の整備と，児童が安心・安全に過ごせる環境の実現と，教師の働き方改革をさらに進める。	A	A	
	学校における業務改善に向けた取組を進めることができたか。	b		A	A	
家庭・地域と連携・協働した教育活動の充実	コミュニティ・スクールの取組を行い，家庭・地域と一体となった学校運営を推進できたか。	b	地域の素材を児童の学びに位置付け，地域に根ざした学校を目指す。また，保護者や地域住民に対して情報発信を行うことで，地域に開かれた学校を目指す。	A	A	
	家庭・地域・学校がめざす子ども像や教育目標，学校運営の基本方針を共有することができたか。	a		A	A	

■　自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた　（８割以上）
b	概ね達成できた　（６割以上）
c	十分ではない　（４割以上）
d	達成できなかった（４割未満）

■　自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり，取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが，若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが，若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。